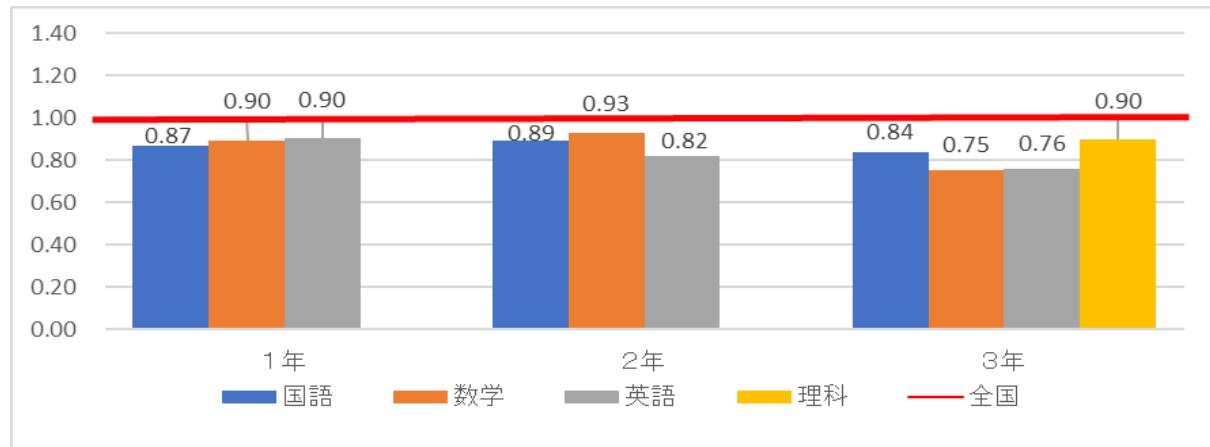


令和7年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について 第八中学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※中学1・2年生（国・数・英）及び中学3年生（英）は、寝屋川市学習到達度調査
中学3年生（国・数・理）は、全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習 到達度調査	国語	観点別では、「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」のほうに課題が見られることから、類似問題の継続的な取組により改善を図っていく。
	数学	2年「文字式」において、全国平均を上回った。一方、1年は「図形」領域、2年は「データの活用」領域に課題が見られた。引き続き、少人数指導による、きめ細かい指導を展開し、基礎・基本の定着を図っていく。
	英語	2年「リスニング内容理解」において、全国平均を上回った。一方で、「書くこと」に課題が見られ、苦手意識を持っていることから、日常的な英作文活動や多読・音読活動を通して表現力と語彙力の向上を図るとともに、少人数指導による、きめ細かい指導を徹底していく。
全国学力・ 学習状況調査	国語	「話すこと・聞くこと」に課題があり、苦手意識を持っていることから、自分の考えが明確に、なおかつ、相手に伝わりやすく話の構成を工夫できるよう指導を行う。
	数学	すべての領域において課題が見られるものの、図形問題「多角形の外角の意味を理解しているか」の部分においては全国平均を上回った。「数と式」領域において特に課題が見られることから、基礎的な学習を積み重ねていく。
	理科	すべての領域において課題が見られるものの、「エネルギー」「生命」領域では、ある程度の理解が見られる。記述式に課題があり、考察や自分の考えを表現する学習場面を設定し取り組んでいく。
	質問紙	すべての教科において「○○の授業の内容はよく分かりますか」について肯定的な回答が多く、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、全国平均を上回っており、教師と生徒とのコミュニケーションが取れているものと思われ、“頼りがいのある大人”として教師が存在すると考えられる。授業づくりの工夫が結果として出ているものと思われる。

○学力向上の取組

【中学校区】

定期的に公開授業を行い、校区の子どもの実態把握に努めている。また、課題の共有と対応策の構築を図るとともに、授業力向上に向けて取り組んでいる。家庭学習の定着化を図るために、自主学習ノートおよび宿題プリントの共有を行う。個別最適な学びを推進するために、個々の習熟度に合わせた教材の提供を行い自らの課題に応じて主体的に学ぶ力の育成を図る。

【学校】

研修部を中心とした授業力向上に関する研修や研究授業を行い、教職員のスキルアップを図る。また、教職員同士による授業参観も頻繁に行っている。数学・英語の少人数授業の展開や、通級指導教室の活用・放課後勉強などにより、各教科における基礎的な知識の向上を図っている。ディベートをはじめ、各授業において話し合いや発表の場を適宜入れ、「考える力」の育成を図り、「主体的、対話的で深い学び」を追求した授業づくりを実践している。